

郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子供の育成

「オンラインでつながろう！」令和6年度世界遺産学習における学校間交流の取組

姫路市教育委員会

1. はじめに

「未来をひらくふるさと姫路の人づくり」を理念とした「第3期姫路市教育振興基本計画」を令和7年3月に策定する予定である。この理念を具現化していくために、姫路型・探究学習を推進していく。姫路型・探究学習の特徴は、産官学が連携して姫路の社会全体で子供の学びを支援していく、体験活動等を取り入れた実践重視の学びである点と、以前から推進してきた小中一貫教育を、さらに発展進化させ、幼稚園から、小学校、中学校、高校までの学びを、「一気通貫型」でつなげていく点である。「一気通貫型」とは、幼稚園から高校までの学びを、「学び方」と「姫路の“ヒト・モノ・コト”の利活用」という2つの観点でつなぐことである。「学び方」については、個々の知的好奇心を原動力として、探究のプロセスを繰り返しながら学びを深めていくものである。「姫路の“ヒト・モノ・コト”の利活用」については、市街地、農山村、漁村等、性格の異なる地域を有し、各種産業、有形・無形文化財等が豊富にそろそろ本市の強みを生かした素材を起点とし、学びを深めていくものである。これは、世界遺産姫路城をはじめ、姫路市内の学習材を活用しながら、「郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子供の育成」を目指してきた世界遺産学習と共通点が多く、本学習のさらなる発展充実を図っていく必要がある。



世界遺産姫路城

2. 教育目標

◆「第3期姫路市教育振興基本計画」（令和7年3月策定予定）

姫路市教育振興基本計画では、基本理念の実現に向けて、学校教育の充実や生涯学習社会の構築に取り組むことにより、下記のような人間が育つことを目指している。

（基本理念）

「未来をひらくふるさと姫路の人づくり」

～すべての人が自分らしく学び、つながる教育を目指して～

（目指す人間像）

- 自身の可能性を信じ、学び続ける自立した人間
- ふるさとを愛し、互いの伝統や文化、生き方を尊重し、多様な人々と共生する人間
- 持続可能な社会の創り手としてつながり、協働できる人間

3. 教育委員会・学校での取組

令和6年度世界遺産学習における「学校間交流」の取組

今年度はマッチングの結果、姫路市の3つの小学校と、世界遺産学習連絡協議会内の奈良市の2つの小学校と斑鳩町の1つの小学校が学校間交流を行った。

本取組の趣旨は、「つながろう！深めよう！ICT 活用で広がる世界遺産学習！」というテーマの下、世界遺産学習をとおして学んだ、自分たちの地域の魅力や課題を伝え合うことで、自分たちだけでは気付けなかった地域や世界の課題に気付き、互いに手を取り合って、持続可能な社会の実現のために何ができるかを考えていくことである。

奈良市立辰市小学校と姫路市立城北小学校は、それぞれの5年生が12月にオンラインで交流した。自分たちの地域の魅力や課題を伝え合うとともに、質問をとおして、自分たちだけでは気付けなかった課題に気付くことができたようである。例えば、辰市小学校から「城北小学校から姫路城まではどれくらいの距離にありますか」という質問に対して、教室の窓の外からタブレット端末で姫路城を映し、その距離を伝えたところ、「大きく見えるくらい近いんやー」との反応があった。この反応は、城北小学校の児童にとっては、姫路城に近いという立地条件のよさを再認識する機会となったようである。この取組については、令和6年度世界遺産学習全国シェアミーティングの第1日目のルーム2「学校間交流」で発表した。

また、斑鳩町立斑鳩小学校と姫路市立城東小学校は、それぞれの6年生が2月にオンラインで交流した。城東小学校では、姫路城の魅力を発信するために、様々な取組を行っていた。特に、児童が撮った姫路城の写真を校内に掲示し、他学年の児童や教職員からの投票により、優秀作品を選ぶフォトコンテストについては、斑鳩小学校の児童からも好評を博していたようである。

2月には姫路城下町スクールサミットを実施し、姫路城周辺の小学校7校（義務教育学校1校を含む）がオンラインで実践を発表し合った。今年度で4回目となる取組であるが、以前は、姫路城に関する内容が中心であったが、今回は、それぞれの地域の学習材に関する発表が多く、また姫路城を地域の宝として、いかに活用していくかという地域発展や持続可能な社会の実現を視点としている発表が多く、実践の積み上げを実感できた。今後の実践に期待したい。



辰市小学校との学校間交流の様子



フォトコンテストの優秀作品

4. おわりに

来年度は、本市で第15回世界遺産学習全国サミット in ひめじを開催する。テーマは、「知るほどに好きが広がり人もつながる地域の宝」（仮）である。姫路市民であれば、姫路城を見たことはあるだろう。しかし、見ているだけで姫路城について詳しく知っているわけではない。姫路で育った子供が、世界遺産学習をとおして、姫路城の魅力を知り、愛着を抱き、郷土に誇りを持つようになってほしい。

前述したように、本市では、令和7年度より本格的に姫路型・探究学習を始動させる。本市の強みは、世界遺産姫路城を有しているのみではない。豊富にそろった学習材を最大限に生かし、幼・小・中・高の校種を超えた、地域発の探究学習を目指している。令和7年11月20日（木）～21日（金）の全国サミットでは、その実践の一端を披露したい。